



Dream times Possibility

「ユメ」と「可能性」

「ひとりの人間として、ネガティブな部分もポジティブな部分も両方認めながら、高校生と関わっていく」という決意をこめて、明暗を抱えながら人を受け入れる夕暮れの空の色をイメージして2色を配しました。

「d」と「p」の斜めのまっすぐなラインは、「常に時代の変化に即して革新的な取り組みを行ない、社会的インパクトを出す」という決意を表しています。

線の中央は、高校生と社会をつなぐ「結び目」を意味しています。

Dream (心に描くユメ)とPossibility (可能性)が無限に広がるようにという願いを込めて「∞(インフィニティ/無限大)」の字が隠してあります。



D×Pと、ひとりひとりの高校生を
ご支援くださっている皆様へ
感謝を込めて。



若者につながる場をつくる

認定NPO法人 D×P

活動報告書 2019-20



認定NPO法人 D×P (ディーピー)

540-0032

大阪市中央区天満橋京町1-27
ファラン天満橋33号室

京都拠点

604-8245
京都市中京区六角油小路町345-2 傍案内

info@dreampossibility.com @npo_DxP

www.dreampossibility.com www.facebook.com/npodxp

取引銀行 三菱UFJ銀行 大阪京橋支店 普通 0072241
楽天銀行 第二営業支店 普通 7079724

理事 今井紀明/塩田脛/村中直人/川上竜典/入谷佐知

監事 毛受芳高

スタッフ 小園明日香/玉井慎太郎/佐々木貴史/野津岳史/岡崎拓也/宮崎あゆみ/
大宅穂香/磯みずほ/熊井香織/中川沙登美/原口茜/高橋正光/笠場彩葵/
春日芽亜/信夫朋香/井隆正純

以下、2019年度内に卒業したスタッフ

森下祐子/西村征輝/岡田暹/綾井佳乃子/杉山里咲

顧問弁護士 高橋健

写真 西川優介/磯みずほ

デザイン 雪崩式





「寄り添う」から 「その先へ」

2019年の春、こんな目標を掲げました。きっかけは、ある定時制高校のできごとです。卒業式の目前に「実は、進路が決まっていない」と話す生徒がいました。

卒業までの3年間、ある学校の居場所「いごちかふえ」でスタッフとよく話をしていました。関係性はできていたはず。それなのに、本人から事情を聞くまで進路に対して何もできていませんでした。すぐにできるだけ情報を集め、伝えました。彼は卒業後に、自分で就職先を見つけました。ほっと安心したけれど、生徒の今に寄り添うだけでは足りなかったと痛感しました。今と未来の居場所をつくるため、卒業後の「その先」までを見据えてサポートしようと決めました。

2019年度は、今まで以上に学校の先生と情報共有しながら進めました。「〇〇さんは、今こんな状況だから、この情報を提供してみよう」「先生から、××さんは今こんな悩みがありそうと聞いたから、声をかけてみよう」生徒に合わせたサポートを考え、一つひとつ実行しました。

しかし卒業式を目の前に、新型コロナウイルス感染症が世界中に広がりました。各地で卒業式は縮小し、学校自体も休校措置がとられました。人とのつながり、偶然の出会いを大切

にしてきたD×Pにとって「人との関わり」そのものが制限されるというのは、まさに思いがけない事態でした。

この状況のなか、できることをスタッフそれぞれが考えました。生徒に宛てた手紙を書き、先生を通じて届けました。オンライン相談の登録者には、状況をアンケートで聞きました。卒業生には「最近どうしてる?」と声をかけました。

「じつは、休業の影響で給料が減ってしまって1日1食でなんとか…」「携帯が止まってしまって、仕事を探すにも探せなくて」困りごとが卒業生やLINEの相談者から届きました。この3月に卒業した生徒のなかには、本人が地域に住むコンポーザー（※D×Pのボランティア）に近況を話したことをきっかけに、偶然スタッフと会ったことをきっかけに、再びやりとりできた人もいます。

地道につながりを続けてきたからこそ受け取った声です。10代本人はもちろん、これまでD×Pと共に10代を支えてくださったひとりひとりの声を受け、今必要なサポートを考えつづけることができます。

わたしたちがつくる「つながり」は、 世代を超えて広がっていく。

「赤ちゃんが生まれました!」と嬉しい声も届きました。数年前にクレッシェンドで出会った元生徒です。報告を受け取ったとき、「人と関わることをやめていた時期があった」という彼女の過去に思いを馳せました。社会全体が不安に包まれるなか、未来を感じるニュースです。

卒業も就職も一つの節目だけど、ゴールではない。ひとりひとりの人生には、嬉しいことも、困難なことも起こります。

わたしたちが出会う10代のなかには、これまでの経験から大人に頼ることが選択肢がない人もいます。でも、彼らが一度でも「頼れる人がいる」と思えた経験があったなら。次に困難なことがあったとき、助けてくれる人を信じられるかもしれません。



きっと、わたしたちがつくる「つながり」は、世代を超えて広がってゆく。

日本全国どこにいても、何があっても、誰かとつながれる。誰かに受け止めてもらえる。そんなセーフティネットを、これからも描いていきたい。

認定NPO法人D×Pスタッフ一同



ひとりひとりの若者が 自分の未来に希望を持てる 社会をつくる

「自分の“これから”に希望があると思えない」
日本には、そんな状況に置かれている
高校生がいます。

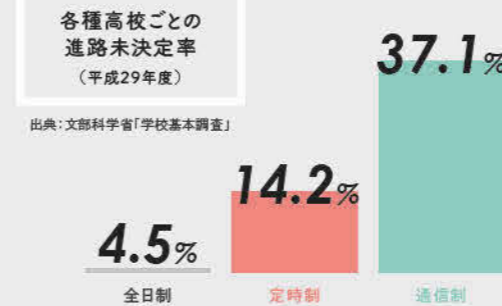
通信制・定時制高校には、さまざまな事情を抱えた高校生がいます。
経済的に苦しかったり、発達障害・学習障害を持っていたり、
過去の経験から人間不信になっていた、
外国にルーツがあって言葉にハードルがあったり。
そういった事情により、人とのつながりを得づらい状況に立たされています。



D×Pは、通信制・定時制高校に通う高校生を中心とした若者に
つながる場をつくるNPOです。

自分の未来に希望が持てないまま
社会に出てゆく高校生。

高校生ひとりひとりには、
可能性があります。



進路未決定のまま卒業を迎え、人とのつながりが途絶えてしまふこともあります。人とのつながりを得づらくと、社会にあるさまざまなセーフティネットや人の助けを得づらくなります。



環境や周囲の人との関係性の中で、本来持っている自分を発揮できない高校生に出会うこともありました。ひとりひとりの可能性がいきる環境をつくる
ことが、「自分の未来に希望を持てる社会」へとつながるとD×Pは考えます。

D×Pの活動

学校現場(オフライン)とオンラインで10代につながります。

出会う・つながる

社会とつながる

オフライン



クレッシュェンド

高校生とD×Pのボランティア「コンポーザー」
が対話する全4回の授業です。ひとりひとりに
寄り添いながら関係性を築き、人と関わってよ
かったと思える経験をつくります。



居場所事業

居心地の良い空間を学校の中につくり、高校生が
定期的にさまざまな人とつながることができる場
を提供します。食事や進路を考えるきっかけを通
じて、高校生の今と未来の居場所をつくります。



仕事体験ツアー

ひとりひとりの希望や状態に合わせた職場見学
や仕事体験です。自分の生き方についての考えや
仕事に対する理解を深め、自身が納得のできる進
路を選んでゆけることを目的としています。

オンライン

オンライン相談事業

気軽に利用しやすいSNSやアプリケーションを通
じて、不登校・高校中退などの困難を抱えた10代
がいつでも自分の進路や就職に関して相談するこ
とができる状態をつくります。



高卒で就職したほうがいいのか 進学するか迷ってます。
悩みを教えてくださいありがとうございます。
進学できても、ひとり親 家庭のため生活費も稼がなきゃいなくて…
就職と進学で迷っているんですね。
バイトしながら、ちゃんと学生生活が送れるかも心配です。どうしたらいいでしょうか。
それぞれどんなところを考えていますか？

チャットでのやり取りやオン
ライン面談などを継続的に
行ない関係性をつくります。



ネクストアクション

居場所や専門的な相談先、就職やアルバイト先、
ロールモデルとなる人・さまざまな機会などを案
内し、相談者の次の行動につなげていきます。

Highlights of 2019

2019年度・D×Pの取り組み

1 関西の6校の定時制高校で 2つ以上の事業を展開

2019年度は6校の定時制高校で、クレッシェンドと居場所事業を導入しました。事業を通じて高校生と出会い、つながりをつくることができました。また、居場所事業で拾った生徒のニーズを反映して、クレッシェンドを行なうなど相乗効果が出ています。継続的に関係性をつくることで、拾える困りごととも増えました。学校に居場所がある状態をつくり、自分の進路や生き方を“選ぶ”ためのサポートを行なっています。

生徒数
(実数) **806**名

生徒数
(延べ数) **4,572**名

通信制・定時制高校での全ての取り組みで
出会い関わった生徒数。
一人の生徒に関わる回数が増えました。

生徒とD×Pの関わり



Aさん

クレッシェンド

2017年に参加。授業中に教室に入ってきたバツタを手の中で囲って、虫が苦手な生徒の方に行かないように気遣っていました。

居場所事業

2018年にAさんの学校でも居場所事業がスタート。開始直後から、よく訪れていました。会話のなかで生き物が好きだということがあり、コンポーザーが運営する「養蜂場」に見学に行ってみないかと誘い、出かけることになりました。

仕事体験ツアー

蜂について図鑑で調べ、仕事体験ツアー当日を迎えました。体験後は、「行けてよかった。アルバイトもしてみたい。卒業したら働きたい」と話していました。新しい世界に足を踏み入れるハードルが下がったのか、今では「海外に行ってみよう」と話しています。



Bさん

クレッシェンド

「将来、仕事しなあかんけど、何しようか悩んでいる」という話を聞き、「放課後に居場所事業もやってるんだけど、そこで続きを話さない？」とスタッフが声をかけました。

居場所事業

「大学に行くか、専門学校に興味がある」と話していました。進学後の学費のことや一人暮らしにはお金がいくらかかるかを計算し、将来の仕事をする上で大切にしていきたいことを一緒に考えていきました。

居場所事業

進学先が決まり、卒業前には「3年間通じて、クレッシェンドや居場所事業で、自分の話を聞いてくれたことがとても嬉しかった」と話していました。アンケートには、「みんな、さまざまな人生を歩んでいることを実感し、自分のこれからに対する不安が解消された」と回答がありました。



放課後等デイサービスで見学、子どもたちと交流
(株式会社メディケア・リハビリ様)

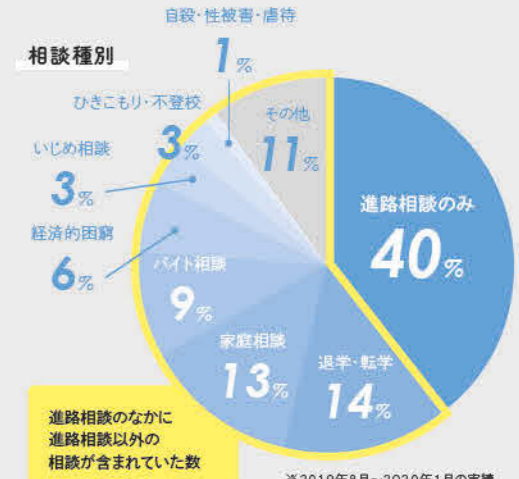
2 仕事体験ツアーへ 22名の高校生が参加

2019年度は、クレッシェンドや居場所事業で関わる述べ22名の定時制・通信制高校の高校生が仕事体験ツアーに参加しました。うち4名の生徒が複数の仕事体験ツアーに出かけ、自分に合う仕事を考えるきっかけとなりました。受け入れ企業は、飲食業や接客業、福祉、製造業など30社に増えました。

3 進路・就職LINE相談の登録者数が 800名を突破

LINE登録者数 **872**名
相談実績 **314**件
※ともに3月末時点実績

孤立しやすい状況になる前に、10代にインターネット上で出会うことができないかと考え、2018年11月よりLINEを用いた相談事業を行なっています。今年度は、学生限定SNSのひま部(2019年12月31日閉鎖)と連携し、アプリ内で相談ができるようにしました。ひま部の閉鎖後は、LINEにて相談を引き継いだ生徒もいました。(ひま部は、「Yay!」にリニューアルし、2020年4月より連携開始)



進路相談のみの相談数が65件、進路相談と家庭環境についての相談が22件ありました。退学や転学を考える背景に、いじめや人間関係の悪化が、就職を考える背景に保護者からの虐待や経済的困難があるなど複雑な悩みとなっているケースも見られました。

4 関東で2校の クレッシェンドスタート



東京と埼玉の2校の定時制高校でクレッシェンドがスタートしました。過去に大阪でコンポーザーとして活動されていた方が、関東でもコンポーザーとして参加して下さることもありました。

コンポーザーの声

コンポーザーは良い意味でボランティアらしくなく、関わる人みんなが高め合える素敵な時間を共有できました。過去の自分について高校生とお話することで、いろんな生き方や価値観を互いに認め合い、高校生を支えるはずが結果自分も学びになり教わる。お金に換えられない価値のある活動だと思います。

先生の声

D×Pのクレッシェンドは、4回継続で行なうことがよかったです。内容も、生徒全員が取り残されることなく、漏れなく参加できる形式だと感じました。生徒にとっても話せる相手が多くて、自分から話すのが苦手な性格の生徒も自分を出すことができていたように思います。今後も継続できるのであれば、2年連続で同じ生徒にアプローチできる仕組みとなれば嬉しいです。2・3年生の余裕のあるうちに、仕事について知り考え始められるようにしたいと考えています。

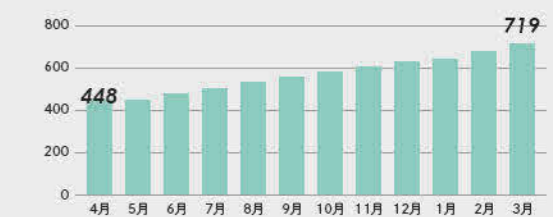
5 マンスリーサポーターが 700名を突破

2018年度末に448名だったマンスリーサポーターが700名を超えました。2019年2月には、サポーターページをリニューアルしました。



「私自身も高校生時代、学校外部のつながりや居場所に助けられました。一人でも多く、自分の拠り所となる繋がりを持つ高校生が増えたら良いなと心から思っています」「不登校経験のある子、親から存在を否定され育った子を学習支援の現場で指導したことがあります。子どもたちが自分の信じる道を自分の手で切り拓いていけるよう、応援しています」とご寄付とともにメッセージを寄せていただいています。

マンスリーサポーター数の推移



通信制・定時制高校のなかにつながる場をつくる

クレッシュェンド



高校生とD×Pのボランティア「コンポーザー」が対話する全4回の授業です。
ひとりひとりに寄り添いながら関係性を築き、人と関わってよかったと思える経験をつくります。
「総合的な学習の時間」などの出席に関わる授業の枠組みで行なうことで、サポートを必要とする高校生にも出会いやすくなります。

コンポーザーとは？

クレッシュェンドと一緒に作る大学生・社会人ボランティア。教える立場ではなく、高校生の話に耳を傾け、ひとりひとりの考えを受け入れ学び合う大人です。D×Pが大切にしている姿勢に共感し、体現する人が集まっています。



クレッシュェンドの様子

第1回プログラム
はじめまして、
こんにちは

高校生もコンポーザーも「はじめまして」。書いたり、話したりが苦手でも参加しやすいゲームや簡単な自己紹介でお互いのことを知り、一緒に4回の授業を進めてもいいと思える関係性をつくります。



第2回プログラム
人生いろいろ
あるんです

コンポーザーは、過去の経験や自分の考えなど通じて生徒と対話します。生徒が「こんな生き方もある・こんな考え方もある」と知り、「大人の人」から少し身近な「○○さん」だと思える関係性をつくります。



第3回プログラム
いままでと
これから

「今ハマっていること」「過去、悩んだこと」などのテーマに沿ってグループみんなで話します。生徒がグループの人に「自分のことを話してもいいかも」と思える関係性をつくります。



第4回プログラム
みんなで
ユメブレ

「ちょっとでもやってみたいこと(=ユメ)」を考えて、画用紙にクレヨンで表現します。画用紙を見せながら自分の考えを話し、受け入れてもらえる環境とクラスメイトを今までより身近に感じられる関係性をつくります。



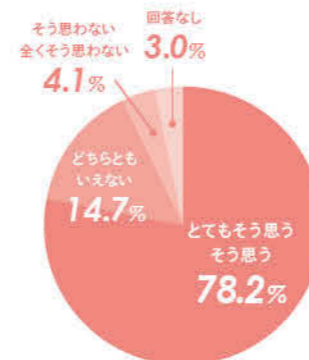
居場所事業を行なう定時制高校では、クレッシュェンド中に周知できるように声かけを行ないました。

クレッシュェンドの成果

1 短期間で濃いつながりができた

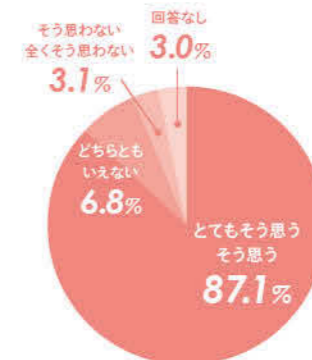
全4回という限られた時間で生徒とスタッフやコンポーザー、または生徒同士のつながりができました。

4回の授業後：オトナたちとまた話したいと思えますか？



コンポーザーやスタッフたちとまた話したいと思えますか？という質問に対し、78.2%がそう思うと回答。自由記述欄には「自分のことを話して一切嫌な気持ちにならなかったのは初めてだったので良かったです」という感想や、「OOがんばれ！」「OOとOOと話したい！めっちゃくちゃ話やすかったです！」とスタッフやコンポーザーの名前を記入する生徒もいました。

4回の授業後：クラスメートのことを以前よりよく知れたと思えますか？



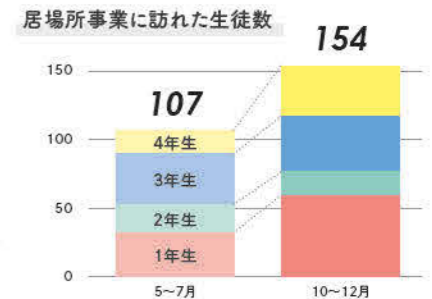
グループ内でのワークやクラス全体でのユメブレなど、交流を通じてクラスメートのことを以前よりよく知れたと回答した生徒が、87.1%となりました。「みんなのユメを知れたから」「少し素が出せたと思うし、素を出すことの抵抗感が減ったと思う」という回答がありました。

2 居場所事業との連携強化

生徒と継続して関わりが持てるようになりました。

ある定時制高校での
居場所事業に訪れた
生徒数の変化

1年生のクレッシュェンドを行なった後、居場所事業にも顔を出す生徒が増えました。学校のなかで1年生の居場所をつくることができました。



「関わってよかった」「また会いたい」と思えるつながりができた

クレッシュェンドでは初回から、ゲームやYoutube・普段の生活のことなどを話していたCさん。最終日に行なったユメブレでは「友人とこれからも関わっていきたい」「幸せな家庭を築きたい」と言い、「人とのつながりが大事」と自分の気持ちを話していました。クレッシュェンド中はグループのコンポーザーとスタッフの野津としか話していませんでしたが、居場所事業にも訪れるようになり、他のスタッフやゲストで来てくださった地域の方とも話すようになりました。年度末の居場所事業では、「また来てほしい。クレッシュェンドがあったから、いろんな人と話せるようになった」と話していました。



Cさんの様子

多様な人が関わるから起こる
“多様な話題”

クレッシュェンド中に「将来自分で飲食店をやりたい」と話していたDさん。関わっていたコンポーザーのEさんは、飲食店を運営していたことがあったため、話が盛り上がりました。4回のクレッシュェンドが終わるとDさんは、コンポーザーEさんに「また会いたい」と言っていました。後日の居場所事業にコンポーザーのEさんが来て、再会。Eさんは、お店の作り方を一緒に話せるように準備してきてくださり、資金集めや開業の仕方など具体的な話を聞くことができました。Dさんは、「今日この話ができて良かった。この学校に来て本当に良かった。ありがとう」と話していました。



Dさんの様子

学校の中から、今と未来の居場所をつくる

居場所事業

安心できる居心地の良い空間を学校の中につくり、高校生が定期的にさまざまな人とつながることができる場をつくれます。スタッフは、日々生まれる会話のなかから困りごとを拾いサポートにつなげます。2019年度は7校の定時制高校で二つのかたちで運営しました。

いごちかふえ (居場所事業)型



2017年より学校の中に安心できる居場所をつくることを目的に運営。活発な生徒も静かに過ごしたい生徒も訪れることができるような場をつくっています。生徒は、会話を楽しんだり、絵を描いたり、端っこの席で仮眠をとっていたりと自由に過ごしています。

自由に絵を描けるスケッチブックやめり絵、羊毛フェルトなど生徒と一緒に手を動かせるものも置いてあります。好きなことをしながら静かに過ごしたり、一緒に何かを描いたり、趣味の合う生徒同士の交流が生まれています。

バイト辞めたいけど、家の近所の店で辞めにくい

そっかー。辞めたいと思ったきっかけはあるん?

メニューのポスターを描く生徒や、終了後の片付けを手伝う生徒もいます。高校生と一緒に働くにつれて感じます。

ライブラボ (進路支援)型



2018年より進路について気軽に相談できる場所として運営。アルバイトや、進学先の選び方、卒業後の生計の立て方などの相談がありました。また、無理なく進路を考えるきっかけをつくれるように仕事についての話を聞く、職業を知るゲームで遊ぶなどの企画を取り入れた学校もありました。

仕事体験ツアーの情報をまとめた冊子を作成し、居場所事業を行なう教室に置いてあります。最近では、生徒同士でこの冊子を開くことも増えてきました。

え?ここめっちゃ近いやん!

そうやで〜。アクセサリ作る体験もできるし、一緒に行かへん?

これからの“D×Pの”居場所事業

来年度は、ライブラボ(進路支援)型でやっているところも、いごちかふえ(居場所)型に変えていきます。ライブラボ(進路支援)型は、「進路相談をする場所」と先生方も生徒も認識しているため、利用者は一部の生徒に限られるという課題がありました。また、卒業年次の生徒では、困りごとが発生してから対応が終わるまでに卒業の時期を迎えてしまうこともあります。なるべく早い段階から気軽に話せる関係性が必要だと考えたため学年関係なく誰でも訪れやすい、いごちかふえ(居場所)型で展開していきます。



特徴 1

出会う・つながる

学校の中に、安心できる居心地の良い空間をつくります。ゲームや本などを置き、自由に過ごす中でクラスや学年を超えた生徒同士のつながりをつくるきっかけづくりをしています。また、食事やお菓子・ジュースなどの配布は、相談がなくても行けるような場づくりにも一役買っています。

特徴 2

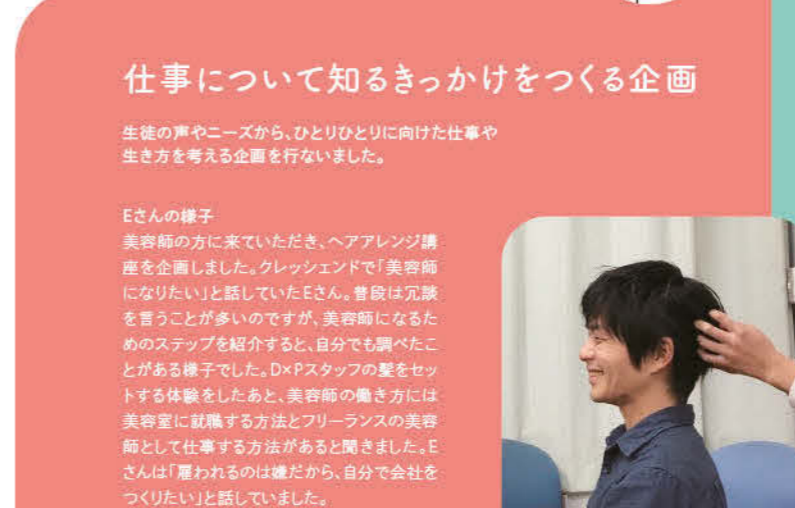
自己表現できる

生徒の抱く困りごとや何かやりたいという希望も、生徒本人が発信しない限り、なかなか知ることはできません。スタッフは生徒が安心して発言や行動ができるよう、「否定せず関わる」姿勢を大切にしています。その上で言動の背景に想いを馳せ、生徒が置かれている状態を把握することを心がけています。

特徴 3

連携・つなぐ

先生やスクールソーシャルワーカーと連携し情報共有をしています。また、生徒が関心のある仕事をする人から話を聞ける企画や仕事体験ツアーへつなぐなど、地域の人や企業とつながる機会を提供します。一部の学校では、学校周辺の地域で活動する他団体と運営し、頼れる大人との関係性をつくるサポートをしています。



時間やお金に余裕がなく、ご飯を食べずに登校する生徒も多いので、食事提供を2校で行なっています。選り好みでメニューを変えてパンやおにぎりなどを配布しています。

元気で〜! 今度、面接行くねん。この服でいいと思う?

それは、ラフすぎちゃう?

25歳の人からナンパされた! 最近、結構遊んでるねん

そうなんや〜! どこで出会ったん? (年齢的に犯罪になってしまうので気をつけておいたほうがいいかなあ)

卒業したら一人暮らしするねんけど、お金のこととかどうしたらいいかわからん

一緒に計算してみよっか

卒業生 インタビュー



大阪府内の定時制高校で働く「いごちかふえ」を訪れ、卒業後も顔を出すゆうかたちなつに話を聞きました。

—いつから、いごちかふえに来てたの?

ゆうか いつからやっつけた?もう忘れたよな。
ちなつ おにぎりもらいに行ってた。あとは、サンドイッチと、パンと天国(食事提供者さんの店名)の弁当...
ゆうか あと、ヤマザキのパン。
ちなつ それか、こぞさんとかささんに会いに行こうみたいな感じ。(※どちらもD×P職員。小園と佐々木のこと)
ゆうか 人に会いに来てたよな。

—どんな話してたの?

ちなつ バイトのこととか、彼氏できたとか彼氏のこういうところがイライラするとか(笑)。ほんまに、誰かが好きとか嫌いとかをずっと言ってたよな。あいつが嫌いやから授業行きたくないわとか。
ゆうか それ、ゆうかもあった(笑)。ほとんど授業行ってなかったし。

—授業に行きにくいな...と思ったときは、ここに来てたん?

ちなつ そう、ここに来たりとか保健室とか。誰かに連絡してどこにおる?って聞いたり、Zeny(ゼンリー:GPSで友達の見守りをするアプリ)ってあるねん。それで、友達どこにおるか見て、このへんやったら教室、ここやったら保健室かな?グランドやったら体育してんのかな?とか。

—いごちかふえの良いところは?

ちなつ 人!ゆうかは?
ゆうか うーん、なんやろう...居場所があったこと?学校の中には、居場所があったから。別に、教室におりたいとかも思わんし。
ちなつ わかるわ〜。
ゆうか 廊下におつたら寒いし、先生、うっとうしい(笑)。(※と言いつつ、放課後になると「先生に会いに行ってくるわ〜!」とふたりで職員室に向かっていた。卒業後もちよくちよく学校に来て近況報告をしているようです。)

—二人にとって“居場所”って、どんなもの?

ちなつ いま、自分の周りにおる友達とかが居場所ちゃうん?結んでて、めっちゃ仲良くて、よく連絡とかとったりして。遊んだりしてたりしている人が自分の居場所。そのグループから抜けたらそこには居場所がない...ってわけじゃないけど、めっちゃ仲良いうってわけじゃないやん?

—そうやなあ、それやったら、私は一人ぐらいいかないかも。

ちなつ いいやん、一人でも、おらんよりはさ!ちなつも二人か三人しかおらんて。

仕事について知るきっかけをつくる企画

生徒の声やニーズから、ひとりひとりに向けた仕事や生き方を考える企画を行ないました。

Eさんの様子
美容師の方に来ていただき、ヘアアレンジ講座を企画しました。クレッシュで「美容師になりたい」と話していたEさん。普段は冗談を言うことが多いのですが、美容師になるためのステップを紹介すると、自分でも調べたことがある様子でした。D×Pスタッフの髪をセットする体験をしたあと、美容師の働き方には美容室に就職する方法とフリーランスの美容師として仕事する方法があると聞きました。Eさんは「雇われるのは嫌だから、自分で会社をつくりたい」と話していました。



はたらく具体的なイメージをもてる

仕事体験ツアー



ひとりひとりの希望や状態に合わせた職場見学や仕事体験です。自分の生き方についての考えや仕事に対する理解を深め、自身が納得のできる進路を選んでゆけることを目的としています。

2019年度は
「D×Pだからできる」
仕事体験ツアーへ

これまで、学外の仕事体験ツアーに出かけること自体のハードルが高かったのですが、今年度は他事業で積み上げた関係性を元にツアーへ出かけることができました。また、仕事体験ツアーに出かけるにあたって、生徒ひとりひとりの状況を詳しく聞き、生徒と一緒に目的を考えるなど、スタッフとの関係性もさらに深めることができています。

1/ 「クレッシュェンド」「居場所事業」で 積み上げてきた関係性を元に、ツアーへ



「知っている人がいるから、行ってみようと思った」

店主の古市さんは、数年前にNさんが運営を手伝う子ども食堂で出会い、クレッシュェンドで偶然再会しました。Nさんは、以前から仕事体験ツアーを紹介している冊子を読んでいたが、古市さんのお店だと知り参加しようと思ったそうです。体験する予定ではなかった接客も、「(お客さんとして来ていたコンポーザーの)Nさんがいたからやってみようと思った」と話していました。

古市さん
nimo alcamo

アンケート冊子の作成や足りない食材の買い出しなど、多くのことをお願いしさまざまな体験してもらいました。中でも野菜を調理しながらフライパンの扱いがだんだんうまくなっていく様子には驚きました。



Nさん

2/ 生徒の状況や希望を知り、 ひとりひとりに合わせた体験内容を企画



「良いものを多くの人に知ってほしい」

学校で話を聞いた時、Kさんの「良いものを多くの人に知ってほしい」という想いを初めて知りました。その時には「こんな話、しても仕方ないと思っていた」とも言っていました。ツアー中には「お客さんの好みに合わせてオリジナルのフィン*をつくらせよう」と考えを話し、店主の阪本さんとアイデア交換をしていました。

*サーフボードに取り付ける「方向舵」の役割をするパーツ。安定性などが変わるそうです。

阪本さん
Loco920*

とても素敵な考え方をを持った生徒さんだなと感じました。アイデアの豊富さは目を見張るものがありました。今回の職場見学を通じて、なにかしら良いものを持ち帰ってほしいと思います。



Kさん

3/ 仕事内容に対する知識の深まり・ 現実吟味の機会提供



「元々祖父が介護のお世話になっていて興味を持ったんです」

介護の仕事に興味があり、「施設介護は見に行ったことがあるけど、訪問介護は知らないので見学したい」と話していました。見学を終え、「細かく思いやりをもって仕事を見て、自分も相手を思いやる仕事を前よりもっとしたいと思った」と振り返りシートに記入していました。また、一人に対して細かく対応できるから「施設介護より訪問介護の方がいいかも」と話していました。

廣瀬さん
株式会社アドナース

話を聞く姿から、福祉の仕事への興味が伝わってきました。医療的ケアの必要物品にも触れ、より介護の現場を知ることができたのではないのでしょうか。訪問介護の在り方に興味を持っていただければ幸いです。



Iさん

4/ どんな仕事が合うのかを知る・ 自分が働くイメージをもつ



「この仕事は合っていると思う。がんばれそう」

「働きたくない」と話しつつも、「工場には行ったことがないから、楽しみ」と言っていました。顔料を0.05g計り、プラスチックプレートをつくと「米粒のような原料がプレートになるのがワクワクした」と話していました。プラスチックの原料を運ぶ作業は重かったそうで、全ての体験を終えたあと「力作業は苦手だけど、この仕事は合っていると思う。がんばれそう」と話していました。

三宅さん
株式会社ナガセテックス

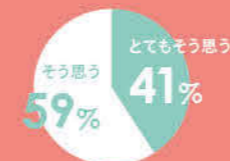
生徒の崙さんが、見学で見聞きするだけでなくいろいろな体験ができればと思い、準備しました。少しでも製造業について知ることができ、彼らが仕事を考える際の選択肢の一つとして製造業が選ばれたら、とても嬉しいです。



Kさん

生徒アンケート(参加者:17名)

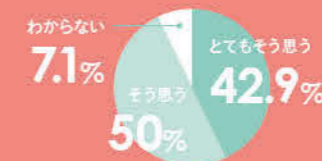
「働くこと」へ前向きになれましたか?



「自分がどんな仕事に向いているのか少しわかることができました。私は、話すことが好きなので、お話ししながら仕事できる職場で働きたいと思いました(通制高校1年生の生徒)」「立ち仕事は大変だったけど、一人で黙々と作業できるのは好きだなと思いました(定時制高校2年生の生徒)などの自由記述もありました。」

導入版アンケート(担当教師:14名)

仕事体験ツアーを導入してよかったですか?



「アルバイトに向けて一つ前の段階がつくれる」「生徒自身のキャリア育成につながると思う」「参加した生徒が内容をよく話してくれたから」「居場所事業から、仕事体験ツアーへ参加する流れができていく」との声をいただきました。D×Pの事業全体を通して、進路に向けたサポートにつなげていきます。

高校生受け入れ企業(25社)

パティスリー アン・スリール/泉州おむすび オトモゴロ/玄米カレーとチャイ nimo alcamo (ニモアルカモ)/株式会社ヒューマンフォーラム/株式会社特産三協製作所/東エッジエンジニアリング株式会社/株式会社 SamuraiGamers/Loco920*/株式会社枕/国産はちみつ hachiroo-/株式会社メディケア・リハビリ PARC(パルク)にしのみや/Collabo Earth E9 × 京都心理カウンセリング塩澤順哉コラボ企画/株式会社ナガセテックス/株式会社Kei's/株式会社アドナース/ひろしげ珈琲倶楽部/ねことわたしスベイクリニック KOBÉ/かける小町/株式会社河辺商会/株式会社 ニット・ウィン/村上産業株式会社/株式会社東作/rainbow rose/株式会社Tn/合同衛生株式会社

これからの 仕事体験ツアー

仕事体験ツアーの連携先を増やす

ツアーに参加した生徒から「今度は、こういうところに行ってみよう」という声を聞いてもつなげられる仕事体験ツアー先がない。ツアー先が遠方のため参加するハードルが高く出かけられないという課題がありました。特に泉州地域や京都の連携先を増やしていきます。

他事業と連携したツアー前後のフォロー

クレッシュェンドや居場所事業での会話などから生徒の状況を把握し、さらに仕事体験ツアーに参加できる生徒を増やします。ツアーに行った後も他事業と連携し、継続して生徒のフォローを行なっていきます。

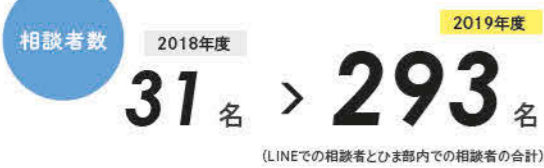
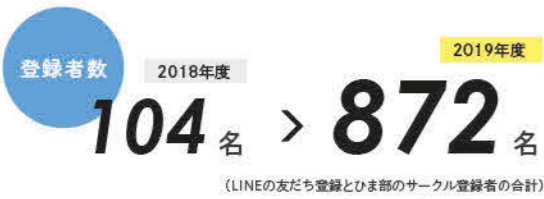
ひとりひとりに合ったつながりと仕事をつくる、つなげる

オンライン進路相談事業

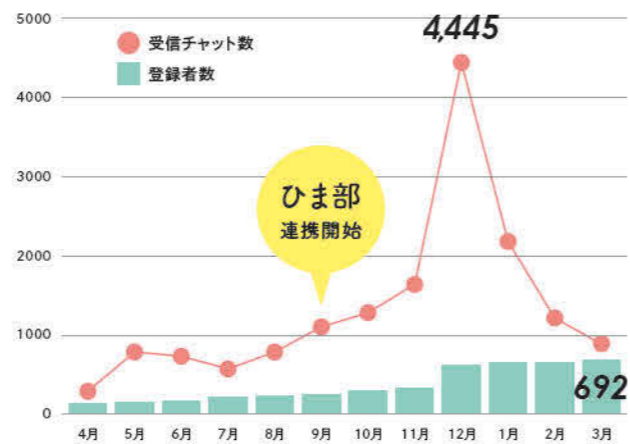
気軽に利用しやすいSNSを通して、
不登校・高校中退などの困難を抱えた10代が
いつでも自分の進路や就職に関して相談することができる状態をつくれます。



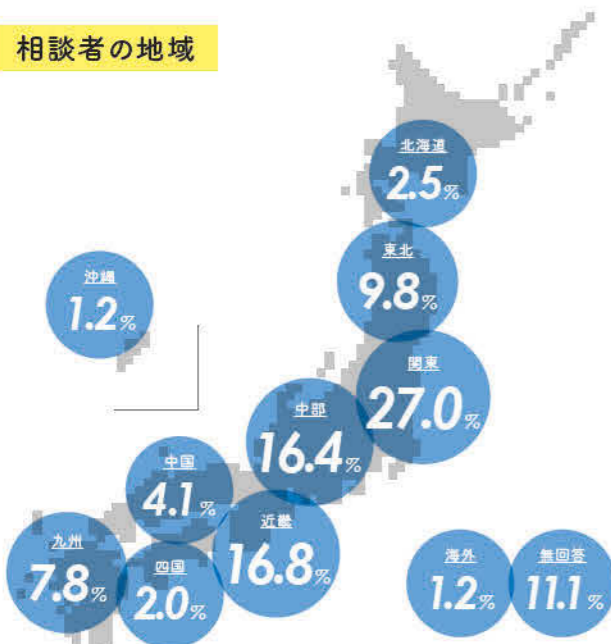
2019年度実績



LINE登録者数と受信チャット数

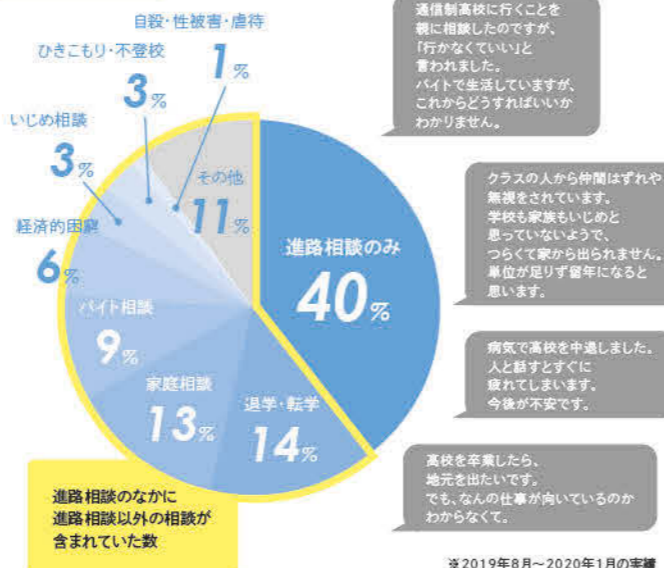


相談者の地域



北海道の奥地や離島など、さまざまなリソースに出会いづらい地方の学生とインターネットで出会うことができました。

相談種別



退学や転学を考える背景にいじめや人間関係の悪化があったり、就職を考える背景に保護者からの虐待や経済的困難があるなど、複雑な悩みとなっているケースも見られました。

サポートの流れ

1 土台となる関係性の構築

相談内容や相談者の状況に合わせて相談員側の情報や経験を開示するなど、個人が見える対応をしています。質問の意図を伝えながら状況を整理し、必要であれば情報提供などを行います。

2 オンライン面談・チャットでのやり取りの継続

安心して話せるような雰囲気をつくります。相談者本人に関心があることを伝えながら、面談後のネクストアクション(相談者が次に取る行動)を本人が決めるように話をしていきます。

3 ネクストアクションに繰り返しつなげるor関係性維持

問題解決を急がず、相談者の状況や気持ちの変化に寄り添います。関係性を維持する場合は、定期的に相談員から声かけや情報提供を行なっています。

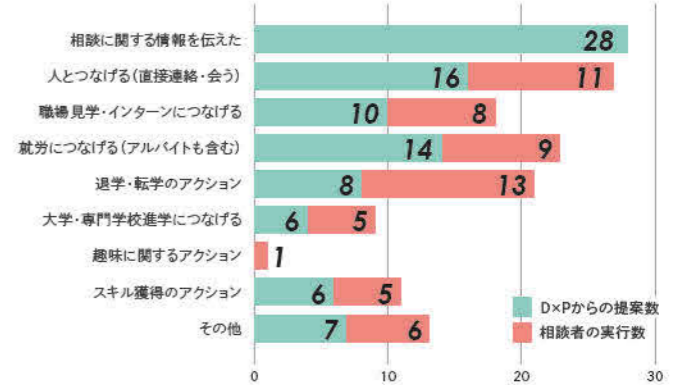
ネクストアクション

相談者が次の行動を取れるように、さまざまな情報を提供しました。



家から出ることにハードルがあるという相談者とコミュニケーションを重ね、無料のスタディーツアーを紹介しました。「絵を通していろんな人と交流できたことは、私の唯一のお土産であり宝物です」という感想とこの経験からもっと芸術の勉強をするため転校を決めたとの報告がありました。

ネクストアクションの提案と実行回数



相談者の声



Fさん (高校2年生)

D×Pに出会ってから、仕事のことからごはんがおいしいことまで、いろいろなことを教えてもらいました。相談するときは、何度も話を聞いたり支えてもらいました。ずっと大人のことを信用できなかったけど、スタッフさんはいつも僕の言葉を信じてくれました。自分のことを信じてくれて、応援してくれる人がいるのが嬉しいです。

中学時代に経済的に苦しい状況があり進学について悩んでいた。通信制高校に入りたいという希望があったため、学費のやりくりの相談などを行なう。高校入学後、進路相談のなかで「プログラミングを学びたい」という気持ちがあることがわかり、スクールを紹介。そのほか、入学試験や住む場所の相談にも応じた。



Gさん (西日本在住の10代)

明日から仕事です。初めてのことが多いので、疲れてしまう時もありますが自分の身体を大事にして頑張ります。前から思っていた自分のお金で自分の欲しい物を買うことを実現させるのが楽しみです。応援ありがとうございます！

ひきこもり状態で、一人で外に出られないことが続いていた。通常のチャット相談に加えて、オンライン上の対面面談を続け、コミュニケーションを重ねた。D×Pの広報業務の一部を引き受けたことがきっかけになり、徐々に経験を積み自宅ワークで外資系企業の契約社員になる。

これからのオンライン進路相談事業

オンライン上でのアウトリーチを強化

LINE相談用のWEBページ立ち上げや10代向けの発信の充実化をはかります。NPO法人3keysが運営する「Mex(ミックス)」への掲載や、10代も利用する匿名SNS「Yay!(イエイ)」と連携してSNS内に相談窓口を設置します。

全国のNPO・高卒就職企業と連携

相談者の住む地域で次の一歩となるネクストアクションにつなげていくため、D×Pの価値観と合う企業と連携を進めています。各地の居場所や専門的な相談先、就職やアルバイト先を案内し、セーフティネットの再構築に向けて動いていきます。

たくさんの方に支えていただきました。 (2019年4月1日から2020年3月31日まで)

D×Pが、経済的にしんどさを抱えた高校生が集まる公立高校でクレッシェンド、居場所事業を実現でき、オンライン相談や新規事業に取り組めるのは、ご寄付・ご助成いただいている方のおかげです。一部となりますが、サポーターの皆様をご紹介します。

 ウォータードラゴン財団様	家入一真様	 大和証券グループ本社様 / パブリックリソース財団様	 ゴールドマン・サックス・アセット・マネジメント株式会社様	桂大介様
 株式会社近畿サービス様	 村上財団 一般財団法人村上財団様	 丸紅基金 社会福祉法人丸紅基金様	 大塚雄三様	まいにちさん
末次由紀様	阪急阪神 未来のゆめ・まち基金様	 藤野英人様	 株式会社 日本駐車場サービス様	おはい
 近畿労働金庫様	畑中洋亮様	 医療法人社団茨賀会 太田ネフロクリニック様	 昭和技研株式会社様	中井和人様
 東工エンジニアリング株式会社様	 ノーステックテレコム株式会社様	 株式会社BJコーポレーション様	 ジョンソン・エンド・ジョンソン日本法人グループ様	野澤澄也様
 CREAVEL株式会社様	岩切敏晃様	 株式会社ナオミ様	 花王株式会社様	長瀬真一郎様
 花王ハートポケット倶楽部様	広井健一郎様	 北海道ポラコン株式会社様	 特定非営利活動法人G-net様	D-JOY様
是國由帆様	岩井俊夫様	 合資会社マネジメント・ブレイン・アソシエイツ様	 株式会社KUROKAWA様	長瀬真一郎様
木村寿克様	小田玄紀様	金田洋子様	遠藤正彦様	KUMAちゃん
西尾伸介様	 合同衛生株式会社様	 株式会社セブンキューブ様	 株式会社エイトキューブ様	 株式会社LIFULL様

マンスリーサポーター (定額寄付会員)

719名

単発寄付は453名、ワールドチャレンジ基金では37名・冬季基金では424名の皆様にクラウドファンディングでご支援いただきました。たくさんのご寄付をありがとうございます。

助成団体 (敬称略)

大和証券グループ本社 / パブリックリソース財団
社会福祉法人丸紅基金
阪急阪神 未来のゆめ・まち基金
近畿労働金庫
公益財団法人 京都地域創造基金

2019年度 活動計算書 (2019年4月1日から2020年3月31日まで)

科目	金額 (単位:円)	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	55,000	
賛助会員受取会費	0	55,000
2. 受取寄附金	41,396,172	41,396,172
3. 受取助成金等		
受取助成金	4,769,670	4,769,670
4. 事業収益		
教育支援事業収益	4,204,553	
講演活動事業収益	2,295,026	6,499,579
5. その他収益		
受取利息、他	4,144	4,144
経常収益計		52,724,565
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料手当	27,794,453	
法定福利費	4,045,829	
その他経費	31,840,282	
(2) その他経費		
旅費交通費	8,563,833	
賃借料	1,677,242	
通信費	582,944	
消耗品・備品費	938,489	
業務委託費	2,604,160	
支払手数料	2,002,336	
その他	3,345,164	
事業費計	19,714,168	51,554,450
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料手当	8,637,620	
法定福利費	1,124,176	
その他経費	9,761,796	
(2) その他経費		
旅費交通費	719,008	
消耗品・備品費	527,206	
賃借料	700,028	
通信費	208,474	
業務委託費	1,986,840	
支払手数料	610,990	
その他	3,135,057	
管理費計	7,887,603	17,649,399
経常費用計		69,203,849
当期経常増減額		-16,479,284
III 経常外収益		0
経常外収益計		0
IV 経常外費用		0
経常外費用計		0
税引前当期正味財産増減額		-16,479,284
法人税、住民税及び事業税		70,836
当期正味財産増減額		-16,550,120
前期繰越正味財産額		14,782,890
指定正味財産増減額		-133,754
一般正味財産増減額		0
次期繰越正味財産額		-1,900,984

※ 今年度はその他の事業を実施していません。



理事長 今井より

2019年度はこれまでで最も10代と関わる機会が多かった年でしたが、一方で創業以来初の赤字となり、苦しい1年となりました。新型コロナウイルス感染症の影響ではほぼ確定していた支援が打ち切りになるなどの影響を受けました。まずは2020年4月時点で融資を受け、キャッシュフローを安定させました。コロナ禍による10代へのサポートを続けながら、スタッフ全員で資金調達を進めたところ、2020年6月末時点で約5,110万円の収入が見込まれることとなり、2019年度と同額のご支援をいただけています。また、同月ですでに資産額が負債額を上回っています。今後2~3年で、定額寄付会員2,500名を目標に財務の安定化を目指します。

受取寄附金
残念ながら昨年度より1,393万円の減収となっています。寄付金のうち約2,751万円が個人の皆様からの小口寄付で、うち約1,215万円が毎月の定期的な寄付です。マンスリーサポーターは466名→719名と過去最大の伸びとなり、多くの皆様に支えていただきました。一方、10万円以上の大口寄付は約1,254万円となり、昨年度の半分以下となっています。1月以降の新型コロナウイルス感染症も影響していますが、組織全体としての訴求方法について大きな課題が残りました。

助成金
大和証券グループ本社様、阪急阪神ホールディングス様、近畿労働金庫様、京都創造基金様の助成金が含まれています。また、p15掲載の助成団体様よりの助成金は2019年度の活動に充てられていますが、一部2020年度分として計上されるものがあります。

事業収益
大阪府、岡山県との行政委託による収入やシェアハウス事業の収入、オンライン事業における業務提携収入も含まれています。

事業費-人件費
高校現場を担当するスタッフは5名、オンライン相談を担当するスタッフは1名、ファンドレイジング部門職員は3名です。※一部、管理業務をする者もおりますが、その業務分は人件費按分により管理部門の人件費として仕訳されています。

事業費-旅費交通費
2019年度は、学校を訪れる頻度が増えたために交通費が上がり、月に100万円を超える支出が発生する月もありました。一方、昨年度では487万円減少していますが、これは10代を海外に送り出す「ワールドチャレンジ募金」での交通費が発生しなかった(新型コロナウイルス感染症による)ことや、出張回数を減らしたことが背景となっています。

事業費-消耗品・備品費
居場所事業の開催校数が1~2校→6~7校に増えたため、消耗品・備品費が昨年比61万円増加しています。

事業費-業務委託費
仕事体験ツアーを業務委託により運営したほか、オンライン相談員2名が業務委託にて相談に当たりました。

事業費-支払手数料
オンライン相談の手数料や、各種オンラインツールの利用手数料、決済手数料が含まれています。

事業費-その他
うち雑費876,162円が最も高く、居場所事業の食費が含まれています。印刷製本費243,770円、福利厚生費461,747円、交際費263,811円、その他新聞図書費・減価償却費・保険料・謝金・広告宣伝費・会議費などが含まれています。

管理費-人件費
経営管理部門のスタッフは1名、その他事業部門のスタッフが管理業務も兼ねて担当している状態です。2020年3月に管理部門のスタッフ1名が退社したため、今後の体制構築が課題となっています。

管理費-業務委託費
引き継ぎM&Tコンサルティング様に経理業務と一部の労務を担当いただき、経理のダブルチェックを行なっています。なお、「その他」の支払報酬や諸会費には、弁護士、社会保険労務士、会計士、NPO法人シーズ様(認定更新のため)への報酬等が含まれており、管理体制を整えています。

管理費-その他
印刷製本費563,122円、水道光熱費376,838円、支払報酬料298,500円、福利厚生費537,582円、その他減価償却費・租税公課・会議費・支払利息・新聞図書費・諸会費などが含まれています。

管理費計
より事業費に充てられるよう、全社的に管理費のコスト削減を行なったため、昨年比で182万円減少となりました。

当期正味財産増減額
今期は創業以来初の赤字となりました。先述のとおり、大口寄付の達成率が芳しくなかったことが影響しています。2020年度は単月黒字化を目指し、定額寄付を募っていくほか、成果をよりわかりやすくお伝えできるような体制をつくります。また、オンライン部門での連携による事業収入を増やすなど収益の多様化も進めてまいります。

※ 紙面の都合上こちらには掲載できませんでしたが、財産目録・貸借対照表はD×PのWebサイトにて開示しております。あわせてご覧くださいませ。

この活動計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、認定特定非営利活動法人D×Pの収支を正しく示していることを認めます。

監事 毛受芳高 (一般社団法人アスパシ)

会計監査 大磯毅 (株式会社わかば経営会計)

高校生に、つながりを。

若者がいきるセーフティネットづくりの一員になりませんか？

わたしたちは、皆様からのご寄付を収入に活動を続けています。
 高校生が暮らす地域に、そして社会にD×Pの価値観に共感し体現する人がいることは、
 誰にとっても大きなセーフティネットになるはずで。
 どんな境遇にあっても、「生きていける」と思えるようなつながりを得られる社会を
 わたしたちと一緒に実現する仲間になってください。

月**3,000**円のご寄付で



1人の高校生がLINEでの進路相談を
1回(30分間想定)行なうことができます。

月**5,000**円のご寄付で



5人の高校生が、『クレッシェンド』に
1回参加することができます。

月**10,000**円のご寄付で



居場所事業にて、約200人の高校生に
食事の無償提供を行なうことができます。

寄付者の声

子どものころ親と折り合いが悪く、自分は要らない子なんだと思っていました。学校でもイジメにあり、自分の居場所はなかったです。でも、周りの大人を頼ることはできませんでした。苦しい気持ちを体験していたので、自分と同じ思いをする子どもを減らす活動がしたいと考えていました。私が子どものころにD×Pのような存在があれば、どんなによかっただろう、と思っています。今の自分にできるのは、寄付という形でD×Pを応援し、還元する側になることです。

是國由帆さん / 個人事業主・IT系コンサルタント

長らく面倒を見ていた10代が、自立に向け奮闘をしています。しんどさを抱えてきた子ということもあり、思いつめたりしているようですが、相談をした先がD×PさんのLINE相談と聞きました。幅広くさまざまな内容が来るのが想像できますが、一つひとつ丁寧に対応されている地道な活動と若者に対して広く開かれた窓口を作られている取り組みに、頭が下がる思いです。私の店は大人が飲みに来る場なため対象者が限定されますが、大人たちが楽しく飲食したお金が回りに回って未来をつくる若者の元に届くことになり、その一助になれるのであれば是非ご支援させていただきたいと思いました。

匿名 / 飲食店経営

マンスリーサポーターになる

月**1,000**円からの月額寄付で



D×Pの活動に参加できます。

D×Pへ寄付していただくと、最大約**40%**のお金が戻ってきます！

月**1,000**円のご寄付で、年間
5,000円(41%)
戻ってくる！

D×Pは、大阪市から認定を受けた「認定NPO法人」です。
 認定NPO法人へのご寄付は、税控除の対象となります。
 地方税も寄附金控除の対象となりますが、控除割合は各自治体によって異なります。
 詳細については、各自治体にお問い合わせください。

2020年度のD×P

1 相談急増のためLINEの相談事業の拡大と、 緊急サポートの開始



LINEを使った相談事業の登録者数が6倍(昨対比)となり、相談のニーズは急増しています。また、登録者の10代を対象にアンケートを行なった結果、4月時点で自身や家庭の収入の減少や食事に困っているという声もありました。1日1食に減らしている10代の声もあり、食糧の提供や月1万円の家賃・食費補助の給付プロジェクトをスタートしました。家族、教育、雇用などの人とのつながりが途絶えると公的資源へのアクセスも難しくなることから、まずは困難を抱えた若者が相談員とLINEでつながり、生活の安定だけでなく精神的な支えとなるサポートを届けます。自治体の制度や働き先、就労に向けたスキルを獲得するための情報提供なども行ない、今後の生計の安定につなげていきます。

2 居場所事業の再開/ オンライン・遠隔での関係性づくりの模索



ある定時制高校では、学校が再開すると始業時間の数時間前から登校する生徒もいたそうです。『生徒が安心して話せる場をつくる』『新1年生との関係性をつくる』ことを優先し、2020年6月より2校で居場所事業を再開することになりました。人数制限や消毒、換気、マスク着用など文部科学省や教育委員会のガイドラインに基づき実施いたします。また、再び休校措置が起こったときに備えて生徒に合わせて情報を届ける『お手紙施策』や『オンラインクレッシェンド』のかたちづくりを進めています。今後の情勢を踏まえオフラインでのつながりの価値とは何かを改めて見直し、サポートのあり方も今までの形に囚われず変化させていく予定です。

つながりを得づらい状況下で、つながりをつくる

新型コロナウイルス感染症の影響を受け、コロナ以前から困難な状況にあった10代がより孤立しやすくなっています。
 ひとりひとりの声を拾い上げ、つながりを得づらい状況下でも、つながりをつくる・つながりを絶やさないサポートを行ないます。

2019年度に連携を行なった企業・NPO(敬称略)



理事長: 今井より

D×Pとしても非常に苦しい年ですが、経営の再建を行ないながら10代のセーフティネットづくりを進めていきます。学校現場のなかに入りづらい状況は続くと予測しており、それが2年以上にも及ぶ可能性があるとして経営判断を行なっています。コロナ後の世界を考えると、国は財政的に窮地に立たされ、より若者支援の予算は減る傾向にあるのではないかと考えています。こういったときにわたしたちのような寄付型のNPOが10代の支援に力を発揮できるはずで。2020年5月から育て上げネットさんキズキグループさんと3団体で連携することも決まりました。今後も各地の企業やNPOとも連携し、一人ひとりに合わせてより多くの選択肢を提示できるような体制をつくっていきます。



今後さらに連携を広げ、孤立する10代を支えるセーフティネットを拡大します。